

## いじめ防止対策推進条例（案）

## 前文

いじめは、人間として絶対に許されない人権侵害です。いじめは、子供の心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、子供の生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあります。また、いじめはどの子供にも、どの学校でも、どの地域社会でも起こり得る可能性があります。

**いじめをなくすために、すべての児童・生徒、すべての日野市民が「いじめは、しない、させない、許さない」という強い決意をもち、互いに協力しながら、あらゆる場で「いじめをしない、させない、許さない」ための行動を実践し、互いを尊重し、助け合う心をもっていじめをなくすよう努めなければなりません。**

ここに、基本理念を明らかにし、**いじめをなくす地域社会の実現を目指すため**、この条例を制定します。

## （目的）

第1条 この条例は、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号。以下「法」という。）の趣旨を踏まえ、児童等に対するいじめの防止に係るための対策について、基本理念を定め、日野市（以下「市」という。）、日野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）、学校、児童等、保護者等の責務、並びに地域住民等及び関係機関等の役割を明らかにするとともに、いじめの防止及びいじめを解決するために基本的な事項を定めることにより、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進することを目的とする。

## （定義）

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) いじめ 児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。
- (2) いじめの防止等 いじめの未然防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処をいう。
- (3) 学校 日野市立学校設置条例（昭和39年条例第20号）**第2条別表第1、第2**に規定する学校をいう。
- (4) 児童等 学校に在籍する児童又は生徒をいう。
- (5) 保護者 親権を行う者（親権を行う者のないときは、未成年後見人）をいう。
- (6) 地域住民等 市の市域内に在住し、在勤し、若しくは在学する者又は市の市域内で事

業を営む者をいう。

(7) 関係機関等 警察、児童相談所その他いじめの防止等に関する機関及び団体をいう。

(基本理念)

第3条 いじめの防止等のための対策は、いじめが児童等の生命、心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を及ぼすものであることに鑑み、全ての児童等が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わずいじめが行われなくなるようにすること。

2 いじめの防止等のための対策は、市、教育委員会、学校及び学校の教職員、保護者、並びに関係機関等が、児童等の生命及び心身を保護し、児童等をいじめから確実に守るとともに、児童等がいじめを知りながら放置することなく、いじめの解決に向けて主体的に行動できるようにすること。

3 いじめの防止等のための対策は、いじめを受けた児童等及びいじめを行った児童等の心情及び背景を踏まえて行うとともに、いじめを受けた児童等及びその保護者並びにいじめを行った児童等及びその保護者に対して必要な支援が行われなければならないこと。

4 学校におけるいじめの防止等のための対策は、いじめの防止等に関する取組を実効的に行うため、学校全体で組織的に取り組まなければならないこと。

5 いじめの防止等のための対策は、学校に加え、市、保護者、地域住民等その他関係機関等の連携の下、社会全体でいじめは人権侵害であり絶対に許されるものではないと正しく認識し、いじめの問題を克服することを目指して行われなければならないこと。

(いじめの禁止)

第4条 児童等は、いじめを行ってはならない。また、児童等は、自分を大切にするとともに、他の人を大切にしよう努めるものとする。

(市の責務)

第5条 市は、第3条に規定する基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、学校、保護者、地域住民及び関係機関等と連携して、いじめの防止等のための対策を策定し、及び総合的かつ効果的に推進する責務を有する。

(教育委員会の責務)

第6条 教育委員会は、基本理念にのっとり、学校におけるいじめの防止等のために必要な措置を講ずる責務を有する。

(学校及び学校の教職員の責務)

第7条 学校及び学校の教職員は、基本理念にのっとり、いじめは重大な人権侵害であって決して許されないものであるとの認識の下、当該学校に在籍する児童等の保護者等、地域住民等その他関係機関等と連携を図りつつ、学校の教育活動全体を通じて児童等に対しいじめの問題に関する啓発、指導等を行うことにより、学校全体でいじめの防止等に取り組む責務を有する。

- 2 学校及び学校の教職員は、当該学校に在籍する児童等がいじめを受けていると思われるときは、迅速かつ適切にこれに対処する責務を有する。

(保護者の役割)

第8条 保護者等は、子の教育について第一義的責任を有するものであり、いじめが児童等の生命、心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を及ぼし、人権侵害にあたるものと認識し、その保護する児童等がいじめを行うことのないよう、当該児童等に対し、規範意識を養うために必要な指導を行うよう努めるものとする。

- 2 保護者等は、その保護する児童等がいじめを受けた場合には、適切に当該児童等をいじめから保護するものとする。

- 3 保護者等は、いじめの防止等のため、市、教育委員会及び学校と連携し、市、教育委員会及び学校が講ずるいじめの防止等のための措置に協力するよう努めるものとする。

(地域住民等の役割)

第9条 地域住民等は、それぞれの地域において児童等に対する見守り、声かけ等を行うとともに、児童等が安心して過ごすことができる環境づくりに努めるものとする。

- 2 地域住民等は、児童等がいじめを受けていると思われるときは、速やかに、市、教育委員会、学校又は関係機関等に当該情報を提供するよう努めるものとする。

(関係機関等の役割)

第10条 関係機関等は、いじめの防止等に関する啓発活動等を積極的に実施するとともに、市、教育委員会及び学校との連携及び協力に努めるものとする。

- 2 関係機関等は、いじめに関する情報を入手したときは、速やかに、市、教育委員会又は学校に報告するよう努めるものとする。

(財政上の措置等)

第11条 市は、いじめの防止等のための対策を推進するために必要な財政上の措置その他の必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

(日野市いじめ防止基本方針)

第12 ~~第11~~条 市は、いじめの防止等のための対策の基本的な考え方その他いじめの防止等のための対策の推進に必要な事項を日野市いじめ防止基本方針（以下「基本方針」という。）として定めるものとする。

- 2 基本方針は、法第12条の規定に基づくいじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針とする。

(学校いじめ防止基本方針)

第13 ~~第12~~条 学校は、基本方針を踏まえ、その学校の実情に応じ、当該学校におけるいじめの防止等のための具体的な対策に関する基本的な方針を定めるものとする。

(日野市教育委員会いじめ問題対策連絡協議会)

~~第 14 (13) 条~~ いじめの防止等に関係する機関及び団体の連携を図るため、法第 14 条第 1 項の規定に基づき、日野市教育委員会いじめ問題対策連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

- 2 協議会は、いじめの防止等に関係する機関及び団体の連携の推進その他いじめの防止等のための対策に関する事項について、連絡調整及び協議を行うものとする。
- 3 前 2 項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

(日野市教育委員会いじめ問題対策委員会)

~~第 15 (14) 条~~ 基本方針に基づく市におけるいじめの防止等のための対策を実効的に行うため、法第 14 条第 3 項の規定に基づき、教育委員会の附属機関として、日野市教育委員会いじめ問題対策委員会（以下「対策委員会」という。）を置く。

- 2 対策委員会は、いじめの防止等のための対策の推進について、必要があると認めるときは、教育委員会に意見を述べることができる。
- 3 対策委員会は、教育委員会から ~~諮問を受けた場合には応じ、~~ または法第 28 条第 1 項に規定する重大事態（以下「重大事態」という。）が発生した場合には、同項に規定する組織として同項に規定する調査等（以下「法第 28 条調査」という。）を行い、その結果を教育委員会に報告等をするものとする。
- 4 学校、教育委員会その他の関係者は、法第 28 条調査の適正かつ円滑な実施に協力するよう努めるものとする。
- 5 前項に定めるもののほか、対策委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

(日野市いじめ問題調査委員会)

~~第 16 (15) 条~~ 市長は、法第 30 条第 1 項の規定による報告を受けた場合において、当該報告に係る重大事態への対処又は当該重大事態と同種の事態の発生の防止のため必要があると認めるときは、法第 30 条第 2 項の規定に基づき、市長の附属機関として、日野市いじめ問題調査委員会（以下「調査委員会」という。）を置くことができる。

- 2 調査委員会は、市長の諮問に応じ、法第 28 条調査の結果について、法第 30 条第 2 項に規定する調査（以下「再調査」という。）を行い、その結果を市長に答申する。
- 3 市長は、調査委員会を設置したとき、又は前項の規定による答申があったときは、議会に報告するものとする。
- 4 学校、教育委員会その他の関係者は、再調査の適正かつ円滑な実施に協力するよう努めるものとする。
- 5 前項に定めるもののほか、調査委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

(協力の要請)

**第 17 ~~(16)~~ 条** 市長又は教育委員会は、いじめの防止等のための対策について、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 1 条に規定する幼稚園、小学校（日野市立学校設置条例別表に規定する小学校を除く。）、中学校（同別表に規定する中学校を除く。）、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校、児童福祉法（昭和 22 年法律第 164 号）第 39 条第 1 項に規定する保育所等に対し必要な協力を求めることができる。

(秘密保持義務)

**第 18 ~~(17)~~ 条** 協議会、対策委員会及び調査委員会の委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(委任)

**第 19 ~~(18)~~ 条** この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、市長又は教育委員会が別に定める。

付 則

(施行期日)

1 この条例は、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。